

「体がへん」は運転しない

「せん妄」とは一種の意識障害で、

脳の働きが一時的に低下して起きる。酒を飲んで、ひどく酔ったような状態になる。注意力や思考力が低下し、自分の周りで何が起きているのか分からなくなる。現在の時刻や自分のいる場所も分からなくなるのだ。

それで、A子さんは、駐車場を出る時にブレーキとアクセルを踏み間違え、B男さんは、自分の家へ帰る道順が分からなくなって車で徘徊し

ていたのではないか。症状は、一見、認知症のように見える。だが、多くの認知症は進行するだけで元に戻らないが、「せん妄」は突然始まり正常に戻る。

「せん妄」は、認知症、脳卒中などの頭の病気をしたひとに多くみられる。だが、頭に病気がない若いひとにも起きうる。この場合、重大な病気が原因であることが多い。

コワイのは、高齢者では、頭の病

突然始まり正常に戻る

気をしたことがないのに、ちょっとした発熱、脱水や便秘になったというだけで「せん妄」状態になることがあるということだ。寝る場所が変わったとか、外が暗くなったというだけでも起きうる。高齢者は、ストレスに弱く、睡眠障害も起きやすい。多種類の薬を服用していることも「せん妄」に不利な条件だ。

繰り返す。「せん妄」は、誰にもどこでも起きうる。ことに高齢者は、「体の調子がへん。頭も、ちょっと」と思ったら、車の運転はしないことだ。

(石黒修三 しいしぐるクリニック・脳神経外科専門医、金沢市在住)

「せん妄」状態

「これからは、魔女狩りならぬ老人狩りがはじまるぞ」とオーバーなのは、ワッシーの悪友だ。最近、83歳のA子さんが、以前に、87歳のB男さんが交通死亡事故を起こした。A子さんの場合は若いひと2人、B男さんの場合は小学生が犠牲となった。「どちらも認知症か？」と、彼は首をかしげている。ワッシーは、ふたりとも認知症ではなく、事故時に、「せん妄」状態になっていたのではないかと思っている。